

私の愛すべき芝居たち

劇団やませ 加藤健太郎



突然ですが、幽体離脱をしたこと
あります？私はたまにあります。
正確に言えば、幽体離脱に近い状
態になります。しかも、起きてい
るときに。普段は集中力がないと
よく言われている私ですが、本を
読んでいる時、映画を観ていると
きは、話しかけられてもまったく
気づかないほど、異常なまでの集
中力を発揮するとも言われていま
す。そんな時は、活字と心、画
面と精神だけの存在になっていま
す。特に映画館にいる時はそれが
顕著です。客席の照明は落ちてい
ても、スクリーンの明かりでうっ
すらと周りが見えているもんです
よね、それがしたいにしたいに周
りが真つ暗になっていくんです。
そして、スクリーンに映し出され
ている世界だけが私の世界になっ
てゆく・そんな経験ありませんか？

先日も、ベンスタで幽体離脱し
ました。芝居を観て、こういう状
態になったのは初めてでした。芝
居というのは、目の前で役者が演
じる、いわば生の空間。どんなに
精巧な装置を作ろうとも、どんな
に素晴らしい演技をしようとも、
それが舞台上である限り、ドキュ
メンタリーだと感じることは、ま
あ、難しいでしょう。私たちはそ
れが「芝居」だということを知
で観にいつているのであり、たと
え本当に本人が自分の役を自分
演じていたとしても、一旦舞台上
上がったら、それはあくまでも
「演技」になってしまいます。も
しこれが映画やテレビだと、もし
かしら本当かも？ っと思つ時、
ありませんか？ これって、もし
かしてとつても危険なことなんじ
やないかって、時々思います。ま
あ、映画やドラマがそう思わせて
くれるのは、それなりに作り手が
上手いということなんでしょけ
ど、ニュースやドキュメンタリー
と称するものが、同じように上手
く作られたものだったら、こりゃ
あ、かたやしませんよ。ええと、
すっかり脱線してしまいました
が、話を戻すと要するに、これま
では、芝居を観ているときはどこ
か冷静でいられたもんなんです
が、先日のベンスタの一人芝居は
違つたんです。のめりこんだのな
んのって！ フワリと間違いなく
身体が宙に浮いていくのが分か
りましたもん。作品はベンさんの一
人芝居「1mの世界」(脚本・沼
沢豊起(劇団INTELVISTA)出演・
田中勉。引きこもりを題材にし
たものでした。タイトルの通り、
舞台上にあるのは1メートル四方
に照明で切り取られた空間、それ
だけ。その小さな空間で男は淡々

と語ります。芝居の最初から最後
まで繰り返される、身体の内部か
ら何かをスクイ、何かを周りに積
み上げていく動作。繰り返され
る音とセリフ。芝居が始まって1
分で、もう完全にトリップさせら
れていました。呼吸することさえ
忘れさせたその時間の後は、いや
あもう、現実に戻るのが一苦労で
した。ちなみにこれは、二本立て
の一本目で、しかもその後の二本
目は実は私が書いた脚本だった
りしたんですが、全然集中できな
いでやんの。(たつた一人の戦争)
脚本・加藤健太郎(劇団やませ)脚
色・出演・安達良春
ベンスタではここ最近、同じ二
本立ての作品を週に二日ずつ一ヶ
月に渡って上演するという試みが
されています。そのほとんどが一
人芝居です。このトリップした日
開演前に会場に入ると、舞台上に
は何もありませんでした。
本当に何もなし・ただの黒い床
と、その奥の黒い幕だけ。しかし
そのわずか十分後、そこには、ま
ぎれもなく男の部屋が現れ、しま
いには無限の宇宙空間になりました。
これこそ、「言葉」の力、人
間の「想像力」の力、「芝居」の
力なんです。世界で初めての「芝
居」は、さかのぼること1000年か昔。
石器時代の洞窟の中で、その日の
狩りの様子を身振り手振りで仲間
に伝えたことだと、読んだことが
あります。大袈裟だとはちつとも
思わずに言わせてもらつと、ベン

Friday Amusement Negative Shop
4月のFANS (739回~742回)
【一人芝居二本立て】

「春だからね」 脚本：沼沢豊起(劇団INTELVISTA) 出演：田中勉
「ナレーション」~このあと衝撃の事実が!~ 脚本：加藤健太郎 出演：安達良春

この公演は、次の日程で上演予定です。

開演	4/4	4/5	4/11	4/12	4/18	4/19	4/25	4/26
14:00				□		●		●
19:30	●	●	●		●	●	●	●

● 2本立て(「春だからね」+「ナレーション」)
□ 2本立て(「こたえ」(3月番組)+「春だからね」)

スタでの私の愛すべき芝居たちに
は、この、はるか昔の原人たちに
よって演じられた「純粹」なもの
を感じずにはいられないんです。
テレビの本当っぽいものに毒され
た私たち、そして映像でみる事故
や事件や戦争を逆にリアルを感じ
なくなつてしまつた私たちが
が、忘れてしまつた失つてしまつ
た「純粹」が、確かにそこにはあ
るような気がします。
二本合わせて、1時間たらずの
ひと時ですが、もしかしたら、あ
なたにとって生涯忘れられない時
間になるかもしれません。大袈裟
ですか？ はい、大袈裟です。
でも、決して無駄足にはなりませ
ん。それだけは約束できます。

演劇空間 **スペースベン** 八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350
☎ 080-6025-0990

HP <http://spaceben.com/> Eメール owner@spaceben.com
※特別番組以外全て午後7時30分~、料金/一般400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。